

はじめに

私たちは、みなさまから安心と信頼を頂けることを信念に掲げ事業、活動を行っております。

今回御提案させていただきますのは、公共遊休施設の有効活用、すなわち災害時における避難区域に各小中学校や公共施設などを利用し、避難所として活用していくということです。

いざ災害が起きた時に電気供給や防災物資などを事前に準備しておけば、より市民の方々に冷静かつ迅速に行動させることができ、被害を最小限に抑えていくことが可能になります。

ここ数年で台風や地震などで想定される被害は計り知れません。

想定される以上に被害が大きく、また地震などで起きる停電などで電気が使えない状況が市民の方々に不安にさせ、今後もいつ大型台風被害、大地震が起きるかわかりません。

少しでも多く想定される被害を抑え、市民の方々が安心できるような避難所として有効活用できるシステム作りを、ここ長野県から発信してまいります。

長野県民間防災事業体 主幹事

株式会社ASTEAD 代表取締役 西坂 柳哉

長野県民間防災事業体主幹事 会社概要



- 社名 株式会社ASTEAD (アステッド)
- 代表者 代表取締役 西坂 柳哉
- 設立 平成23年7月1日
- 所在地
 - 【本社】 〒391-0013 長野県茅野市宮川6643番地48
 - 【長野オフィス】 〒391-0001 長野県茅野市ちの314番地6
TEL: 0266-78-7774 FAX: 0266-78-7776
 - 【東京オフィス】 【名古屋オフィス】
 - 【海外事業部】 ASTEAD CONSTRUCTION PILIPPINES INC.
- 取引銀行 三井住友銀行 八十二銀行 長野銀行 長野県信用組合
- 資本金 600万円
- 業種 総合建設業 美容事業 デザイン事業 海外貿易事業 防災支援事業



- 社名 株式会社グッドライフ
- 代表者 代表取締役兼CEO 小泉 翔建
- 設立 平成23年11月
- 所在地
 - 【本社】 〒394-0083 長野県岡谷市柴宮2丁目12-6 第二小口ビル201
TEL: 0266-78-6018 FAX: 0266-78-6017
- 取引銀行 諏訪信用金庫
- 資本金 300万円
- 業種 太陽光発電システム販売・施工・管理メンテナンス
損害保険代理店
- グループ会社 株式会社GLメンテナンス信濃 (所在地: 長野県岡谷市)



- 社名 HARIO株式会社
- 代表者 代表取締役 清沢 俊太郎
- 設立 平成25年7月3日
- 所在地
 - 【本社】 〒390-1103 長野県東筑摩郡朝日村針尾916-1
TEL: 0263-55-6754 FAX: 0263-99-2481
- 取引銀行 八十二銀行 長野銀行
- 資本金 300万円
- 業種 経営支援事業 防災支援事業



- 社名 株式会社ミヤサカ工業
- 代表者 代表取締役会長 宮坂 義政
代表取締役社長 松本 耕平
- 設立 平成2年 (創業昭和60年)
- 所在地
 - 【本社】 〒391-0012 長野県茅野市金沢5568-2
TEL: 0266-79-7115 FAX: 0266-79-5597
- 取引銀行
- 資本金 1,000万円
- 業種 センターレス研削 端面研削 極細線直線
新企画商品開発事業

長野県防災事業体の主な活動内容

自治体防災減災活動

防災協定に基づく支援広報活動

地域防災連携活動

消防団など地域単位での防災支援活動

私共は、災害時だけでなく、平時における防災減災のコンサルタントとして自治体から地域住民まで情報物資すべてのサポート行って参ります

屋根置き太陽光発電施設

平時災害時一環プロジェクト

非常時物資供給システム

指定物資の提案調達から指定物資の運搬

私達は、震災直後の被災者の声を教訓に、地元の防災減災につなげて参ります

震災直後に困ったことアンケート調査 (有効回答数541人)	
	(人)
水の確保・持ち運び	220
携帯が繋がらない、連絡ができない	209
食料の確保	204
お風呂・トイレ	187
灯りがつかない	141
寒さ・暑さ対策	134
自分の住んでいる地域でどのような危険が潜んでいるかわからない	69
食器など日用品の入手	31
風邪などの健康管理	18
乳幼児の体調管理	16

アンケートデータ引用：日刊SUMAI <https://sumaiweb.jp>



飲料・生活用水問題

飲料水の確保の他、トイレなどの【生活用水】の確保は、確保運搬も含め災害時には非常に困ります。



停電・電力不足

特に携帯電話の充電は必須。また夜間の防犯灯なども災害時には不安抑制の効果もあり重要とされる。



衛生・環境面への配慮

特にトイレは大きな避難所ではニオイや汚物処理が問題となります。また乳幼児や妊婦への衛生上の配慮も避難所毎の課題となります。

電気・水道・ガスなどライフラインが止まることは、当たり前がストップしてしまうことで、暑い・寒い・暗い・お風呂に入れないなどストレスが増大し肉体的精神的につらい状況が続きます。

これらの問題を震災初動からいかに早く準備実行できるのかが重要であると考えます。

ボランティア活動する側から見た被災地の現状

平成27年9月関東・東北豪雨災害（鬼怒川氾濫）直後のボランティア活動と体験（ミヤサカ工業HPより）

- ①給水車が出動しても、交通の混乱で給水場所まで平時5分の所2時間もかかっている
- ②高齢者や女性など力のない方では、100mの距離でも重い水は持ち帰れない
- ③自治体災害本部に多量の支援物資とペットボトルが届いても道路が寸断されて避難所に運ぶ手段がない
- ④手洗い、洗濯、食器洗い、体拭きなどの生活用水は、飲料水と同等またはそれ以上に大切であり大量に必要となる
- ⑤水確保用のポリタンクなどは、被災地近隣ホームセンターでも売り切れている

『給水車がある・備蓄水がある・支援物資がある』
 従来型の備蓄型防災には少なからず盲点があります。
 特に飲料水と生活用水は、災害初期段階から
 いつ？だれが？どんなどのように供給するかが重要です



道路が寸断され慢性的な渋滞



物資が被災者まで届きにくい状況



ミヤサカ工業による災害への取り組みについて